

南九州産杉材の活用！

9月14・15日日置地区林材協会の研修会があり、水俣市の新栄合板(株)と南郷町のウッドエナジー(協)を見てきました。

新栄合板は最近生産量のおよそ30%は杉の構造用合板を生産しており、杉は九州産を使い、鹿児島からも購入しているそうです。原木は4M中目材(平均径240mm)で矢高5cmまでの小曲がり・黒芯材を含み、9,000円/m³(工場着)で仕入れているようです。

ウッドエナジーは飼肥杉の構造用集成材を作っている工場でした。協同組合の中心企業は吉田産業(資)で300m³/日の生産能力を持つ製材工場で、現在、設備更新中で10月には400m³/日になるということです。この吉田産業で製材されたラミナを使って構造用集成材を生産しています。製品は多品種生産で、客先ニーズに合わせた生産をすることで価格競争の市場には入らず、杉の良さをアピールしていくということでした。工場は1Fが乾燥材の加工工場で、2Fは集成材の加工工場でした。幅が30M強、長さは100M以上ある大きな2階建てでした。また外には100m³の乾燥機9機と30m³の乾燥機が3機あり工場廃材を燃やして作る蒸気で運転し、さらに残った蒸気を利用して木質バイオマス発電で、500Kw以上の発電も行っていました。鹿児島で見る製材工場とは全く規模が違い、ただただ驚くばかりでした。

今回研修した新栄合板で6~10万m³/年、ウッドエナジー(吉田産業)で10万m³/年、さらに、今話題の儲かる林業で検討されている製材工場はこれ以上の規模になるといいます。同じような規模の製材工場が熊本県や宮崎・大分県でも検討されています。他にも伊万里の中国木材の工場を加えると、本当に原木の供給は大丈夫なのでしょうか？原木の価格が上がり、山の手入れができるようになれば良いのですが、山が伐採されたまま、荒地と化し、工場同士の価格競争で共倒れにならないことを期待しましょう。

それよりも既存の中小製材工場のあり方を早急に検討しなければならないと思いました。

【情報】

10月はいろいろな催しがあります。参加してみませんか

＊九州福祉用具フォーラム2006 in 鹿児島

日時 平成18年10月6~7日(金・土) AM10:00~PM5:00

場所 かがしま県民交流センター・かがしま市民福祉プラザ

＊第7回かがしま木材まつり

日時 平成18年10月21~22日(土・日) AM10:00~PM4:00

場所 MBC グランド (MBCふるさと秋祭りと同時開催です)

＊2006 かがしま 住まいと建築展

日時 平成18年10月27~29日(金・土・日) AM10:00~PM5:00

場所 かがしま県民交流センター

【定休日】10月は1, 8, 14, 15, 21, 22, 28, 29日となります

11月は4, 5, 11, 12, 18, 19, 23, 26日となります

ご協力をお願いします。

(お問い合わせは、お客様サービス係の東野まで)

